

沼津千本松原

若山牧水

時事千本餅

神山野

大正十五年九月十四日、十六日の
「時事新報」に掲載された檄文

私が沼津に越して来ていつか七年経った。或はこのまま此処に居据わることになるかも知れない。沼津に何の取柄があるではないが、唯だ一つ私の自慢するものがある。千本松原である。

千本松原位い見事な松が揃ってまたこの位の大きさ豊さを持った松原は恐らく他にないと思う。狩野川の川口に起って、千本浜、片浜、原、田子の浦の海岸に沿い徐に彎曲しながら遠く西、富士川の川口に及んでいる。長さにして四里に近く、幅は百間以上の広さを保って続いておる。この全体を千本松原というはあるいは当たらないかも知れないが、しかも寸分の断え間なく茂り合って続き渡っているのである。そして普通いう千本松原、即ち沼津千本浜を中心とした辺が最もよく茂っている。松は多く古松、二抱え三抱えのものが眼の及ぶ限りみっちり相並んで聳え立っているのである。ことに珍しいのはすべて此処の松にはいわゆる磯馴松の曲りくねった姿態がなく、杉や樺に見る真直な幹を伸ばして矗々と聳えていることである。

今一つ二つ松原の特色として挙げたいのは、単に松ばかりが砂の上に

並んでいるいわゆる白砂青松式でないことである。白砂青松は明るくて綺麗ではあるが、見た感じが浅い、飽き易い。此処には聳え立った松の下草に見ごとな雑木林が繁茂しているのである。下草だの雑木だのといつても一握りの小さな枝幹を想像してはいけない。いずれも一抱え前後、あるいはそれを越えているものがある。

その種類がまたいろいろである。最も多いのは榊、犬ゆずり葉の二種類で、一は犬樟とも玉樟ともいう樟科の木であり、一は本当のゆずり葉の木やや葉の小さいものである。そして共にかがやかしい葉を持った常緑樹である。その他冬青木、椿、檜、櫨、棟、棕、とべら、胡頹子、臭木など多く、榎などの思いがけないものも立ち混っている。そして此等の木々の根がたには篠や虎杖が生え、まんりよう藪柑子が群がり、所によつては羊歯が密生しておる。そういう所に入つてゆくと、もう浜の松原の感じではない。森林の中を歩く気持である。

順序としてこれらの木の茂み、またはその木の実に集まつて来るいろいろの鳥の事を語らねばならぬ。が、不幸にして私はただ徒にその微妙

な啼き声を聴き、愛らしい姿を見るだけで、その名を知らぬ。僅に其処に常住する鴉——これもこの大きな松の梢の茂みの中に見る時おもしろいの外の美しい姿となるものである、ことに雨にいい——季節によつて往来する山雀、四十雀、松雀、鶺鴒、椋鳥、鶺鴒、百舌鳥、鶯、眼白、頬白などを数うるに過ぎぬ。有明月の影もまだ明らかな暁に其処に入つてゆけば折々啄木鳥の鋭い姿と声とに出会う。

夜はまた遠く近く梟の声が起る。見ごとなのは椋鳥の群るる時で数百羽のこの鳥が中空に聳えた老松の梢から梢を群れながら渡つてゆくのは壯観である。

秋の紅葉は寒国のもので、暖かい国だとよく紅葉しない。楓など寧ろきたない黄褐色に染つて永い間枝頭にくっ着いている。僅に櫨のみ暖国でもよく紅葉する。どうしたものかその櫨がこの松原の中に多い。なかなか大きいものもある。老松の間にあつてこの木の漸く染まる頃からこの松原はよくなつて来る。茅萱が美しい色に枯れ、万両や藪柑子の実の熟れて来る冬もいい。冬は朝にゆうべに、淡い靄が必ずこの松原の松の

根がたに漂うている。十二月には椿が咲いて——その頃まで撫子も咲いているが——やがて春になる。春もいい。小鳥の声の次第に多くなる初夏、この時もいい。ただ真夏だけは感心しない。

この広くかつ長い松原の中央に縦に一筋の小径が通じている。狩野川の川口から原町の停車場に到る間二里あまりは紛れなく通じているが、それから西は判然していない。この小径はもと甲州街道とも甲駿街道とも呼ばれたもので、その出来た初めは現在の東海道よりずっと古いものだそうだ。想うに今の東海道の通じている辺は昔は現在の浮島村附近の如く一帯に深い沼沢地であつて道路など造れなかつたものであろう。そしてこの海岸沿いの砂丘の上に一筋の道をつけて通行していたであろう。それはとまれ、私はこの松原の中の甲州街道を歩くことを非常に好む。何ともいえぬ静けさ、何ともいえぬ明るさ、何ともいえぬうるおいがこの松原の、というより長い長い森の中の小径に漂うているのである。たまたま出会うのは漁師たちで、ただ松風とやや遠い浪の音と小鳥の声とがあるのみである。芝居でやる伊賀越の沼津の平作が腹を切つたは東

海道でなく、この甲州街道を使つてあるそうだ。

沼津から千本浜へ出ようとする浜道の右手に千本山じやうさん乗運寺じという寺がある。当代よりは廿六世以前、山城国やましほ延暦寺えんりやくじ乗運公の実弟、増誉上人ぞうよという人がこの沼津の地に來り、以前鬱蒼うつそうとして茂つていたと伝えらるる松原が相模の北条と甲斐の武田との戦いの戦略から一本残らず伐り払われ、見る影もない荊棘けいきよくの曠原かうげんとなつていたのを嘆き自ら植樹に着手した。しかし、今もそうだが此処ここの浜は砂地でなく荒い石の原である。植えてもなかなか根づかない。ために上人は一本植うることに阿弥陀經あみだきやうを誦じゆし、植えかつ読經しながら辛うじてまず一千本を植えつけた。そして時の政府に建言し、枝一本腕一本というきびしい法度はつとを設けて苗木を愛護し、数代の苦心によつて現在の壮大な松原が出来上つたものだそうだ。元來この東駿河地方するがは秋口から春にかけて吹きつくる沖の西風の極めて烈はげしい所で今でも大の男がまともに歩きかぬる風に出会うことが屢々しばしばある。松原の絶えていた時代、その西風が海から沙煙しおけむりを吹きあげて遠く四周に撒き散らし、農作物は出来なくなつてしまった。増誉上人は

単に松の眺めの絶えたを惜しんだばかりでなく、こうした濟世救民の志もあつたのである。この大きな松原に遮られて汐煙はおろか、風そのものすらも遠く数町の間には落ちて来ぬのである。

初め私がほんの一、二年間休養するつもりでの転地先をこの沼津に選んだのは、その前年伊豆の土肥温泉に渡ろうとして沼津に一泊し端なくこの松原の一端を見出し、それに心を惹かれてのことであつた。で、沼津に移つて来てからは折あればこの松原にわけ入つて逍遙した。そして終に昨年、その松原の松の蔭の土地を選び、自分の住家を建てた。それこそ松原の直の蔭で、隣接する家とともなく、いまだに門に人力車を乗りつくる事も出来ぬという不便の地点の一軒家である。無論松に親しむ心が先立つたのであつたが、一つはこの冬の西風を避けたいためでもあつた。そしてこの二つの願いは願ひどおりに叶うたのである。此処で私は今まで何ということなしに始終追われ通しに追われて来たような忙しい生活を棄て、心静かに自分の思うままの歩みを歩むというような朝夕に入ろうとしたのであつた。

ところが、昨今、聞くに耐えぬ忌まわしい風説を聞くことになった。曰く静岡県は何とかの財源を獲んがために沼津千本松原の一部を伐採すべしというのである。

元来この千本松原は帝室御料林に属していた。それを永年運動の効があつて静岡県は今年これを自分の手に納めた。納むるや否や、百年の風雨に耐えて来たこの老樹の幹の皮を剥いで黒々と番号を書き込んだのである。松ばかりか、茂り合つて枝葉を輝かしている櫛の木にも犬ゆずり葉の木にもみなそれが記された。薪に売らんがためである。

無論、松原全体を伐ろうというのではない。右いうた甲州街道から北寄りの沼津市内に属する部分を伐ろうというのである。然り而して其処は実に東西四里にわたる松原のうち最も老松に富み、最も雑木が茂り、最も幅広く、千本松原の眼目ともいふべき位置に当るのである。此処を伐られてはもう千本松原は日本一の松原ではなくなる、普通の平凡な一松原となり終るのである。

さすがに沼津も騒ぎ始めた。沼津として此処を伐り払わるる事は全く眉を落し頭を剃りこぼたるるに等しい形になるのである。また、静岡県としても此処を伐つて幾らの錢を獲んとしているのであろうか。幾らの錢のために増誉上人以来幾百歳の歲月の結晶ともいふべきこの老樹たちを犠牲にしようというのであろうか。

私は無論その松原の蔭に住む一私人としてこの事を嘆き悲しむ。が、そればかりではない。比類なき自然のこの一つの美しさを眺め樂しむ一公人として、またその美しさを歌い讀んで世人と共に樂しもうとする一詩人として、限りなく嘆き悲しむのである。まったく此処が伐られたらば日本にはもうこの松原は見られないのである。あに其処の蔭に住む一私人の嘆きのみならんやである。

静岡県にも、県庁にも、また沼津市にも、具眼の士のある事を信ずる。そして眼前の些事に囚われず徐に百年の計を建てて欲しいことを請い祈るものである。

(大正十五年九月六日、徐に揺るる老松の梢を仰ぎつつ)

歌人若山牧水は、明治十八年宮崎県東郷町（現日向市）に医師の長男として生まれ、文学を志して早稲田大学に学び、調べの美しい八千首にも及ぶ短歌、詩情豊かな紀行文や随筆を発表して、人々に感動を与えました。

大正九年八月、沼津の風土とりわけ千本松原の景観に魅せられ、一家を挙げて沼津へ移住しました。

大正十五年、牧水が惚れ込んだ千本松原の一部を伐採する計画が起ると、牧水はこれに反対して、「沼津千本松原」と題する一文を『時事新報』及び『沼津日日新聞』に寄稿しました。松の伐採に反対する市民運動は盛り上がり、松の伐採は中止されました。自然保護運動のさきがけといつてよいでしょう。

「社団法人沼津牧水会」設立及び「沼津市若山牧水記念館」開館二十五周年記念事業としての「特別企画展」に展示した牧水の檄文「沼津千本松原」をご紹介します。

平成二十四年十一月

公益社団法人 沼津牧水会